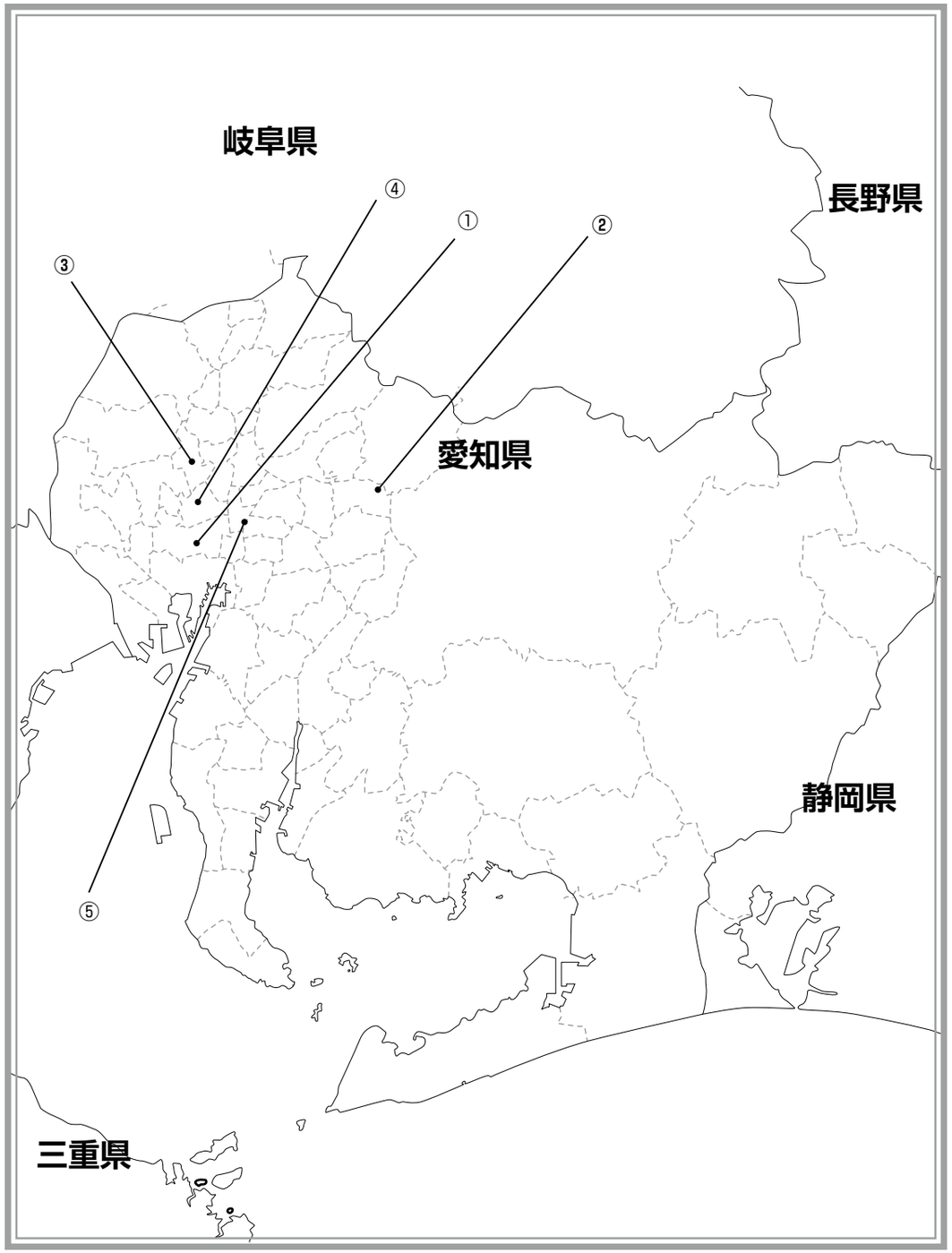
武将たちを生み出した土地



愛知県

①【荒子城跡】名古屋市中川区荒子町

前田利家誕生の地。利家の父利昌の築城。天正３年（1575）に、利家は初めて城持ちとなり、越中府中城（北の庄城の出城）に移り、荒子城は廃城となった。現在の富士権現社。（地下鉄東山線・高畑駅より徒歩 10 分）

【荒子観音】名古屋市中川区荒子町

天台宗の寺。尾張四観音のひとつ。前田利家が天文５年（1536）に修造している。多宝塔は、天文５年に再建された国の重要文化財に指定されている。（地下鉄東山線・高畑駅より徒歩 10 分）

②【小牧・長久手古戦場】愛知郡長久手町武蔵塚古戦場公園

天正 12 年（1584）秀吉と家康の合戦。信長の死後、秀吉の勢力拡大をおさえるため、家康が織田信雄を味方にし、秀吉を攻めた。家康有利であったが、秀吉は信雄と和睦。家康は交戦する大義をなくし、家康も秀吉と和睦した。古戦場公園内に、長久手郷土資料室がある。（地下鉄東山線・藤が丘よりリニモを利用。リニモ・長久手古戦場下車）

③【清洲城】清須市朝日城屋敷１番地１

元々、守護代の織田家の居城として築城。信長が、弘治元年（1555）から永禄 10 年（1567）の間、居城としていた。後、織田信雄（のぶかつ）、文禄４年（1595 年）には福島正則も居城とした。慶長 15 年（1610）徳川義直の時、名古屋城に城下町ごと移っていった。現在の城は、平成元年に再建。（名鉄線・新清洲より徒歩 15 分）

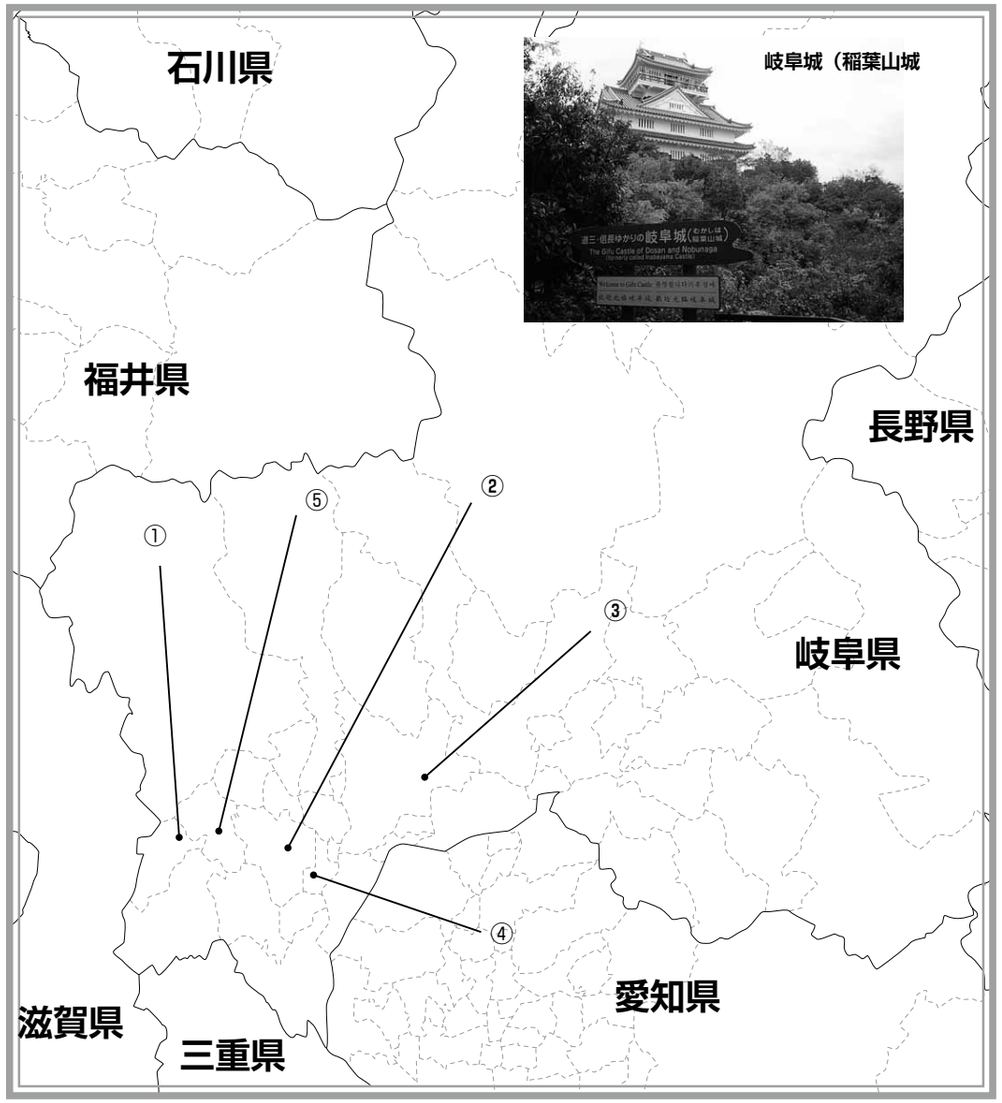
④【中村公園】　名古屋市中村区

秀吉生誕の地。秀吉は、天文６年（1537）年二月六日、尾張国愛知智郡中村に生まれている。現在の名古屋市中村区。その地は中村公園として残されている。明治 16 年（1883 年）に、豊国神社が建てられまつられている。公園内に「名古屋市秀吉清正博物館」がある。（地下鉄東山線・中村公園より徒歩７分）

⑤【名古屋城】名古屋市中区

元は今川氏の居城、那古野城。信長も居城としたが、清洲城に移り廃城。徳川家康により築城。徳川義直以来 16 代、尾張徳川家の居城として続く。
（地下鉄名城線・市役所より徒歩５分、地下鉄鶴舞線・浅間町より徒歩 12 分）

武将たちの攻防の地



岐阜県

①【関ヶ原古戦場】 不破郡関ヶ原町

慶長５年（1600）、家康を中心とした東軍と三成を中心にした西軍の合戦。小早川秀秋らの寝返りにより西軍の敗退。（JR 関ヶ原、合戦の縁の地は町内各所に点在。最終合戦値は、徒歩ならば 30 分程度）

②【大垣城】 大垣市郭町

天文４年（　）城郭を築く。天正 13 年（1585）秀吉が一柳直末を大垣城にし天守閣の造営を開始。昭和 20 年に戦災で消失。昭和 34 年に再建。関ヶ原の合戦の時には、城主の伊藤盛宗が西軍に属したため、

三成らが入場。その後、関ヶ原に陣を移した。（JR 大垣城より北へ 600M）

③【岐阜城（稲葉山城）】 金華山

油売りから身を起こしたとも言われている斉藤道三が要害化した山城。油売りは、斉藤道三の父長井新左衛門尉のことであることがわかってきている。道三の孫龍興（たつおき）が守る稲葉山城を家臣の竹中重治（半兵衛）が

▶岐阜城より岐阜市を望む。

◀墨俣一夜城から岐阜城（稲葉山城）を遠くに望む。手前は長良川。

占拠する事件がおきる。永禄 10 年（1567）信長に攻略され、龍興は城を捨て逃れる。信長が城主になり、名称を稲葉山城より岐阜城に変え、地名も井の口より岐阜へと変えたと言われている。信長は岐阜城で「天下布武」の朱印を用い、天下統一を目指した。昭和 31 年の再建。（JR 岐阜駅、または名鉄岐阜駅より岐阜バスにて約 15 分。岐阜公園下車徒歩５分、金華山ロープーウェイにて山頂へ）（※２巻 65p）

④【墨俣一夜城】 大垣市墨俣町墨俣

昔は、木曽川、長良川、揖斐川の合流。信長の美濃攻略における重要ポイント。秀吉が、永禄９年（1566）にごく短期間で築城。美濃攻略の足がかりとなった。城と言っても、天守があるわけではなく砦であった。（JR 大垣駅より名阪近鉄バス・岐阜聖徳学園大学行き

「墨俣」で下車、徒歩５分）

⑤【菩提山城】 不破郡重井町岩手

竹中重治（半兵衛）の父、重元によって築かれた山城。竹中半兵衛の居城。（JR 関ヶ原駅より、4 ～ 5 km）（※１巻 65p）

秀吉の出世と部下を輩出

▲秀吉が治めた長浜は今も城下町の雰囲気を残す。

▲彦根城より佐和山を望む。

滋賀県

《長浜》

古くは今浜と言った長浜。天正元年（1573）、信長が朝井氏より奪い、秀吉に与えた。秀吉が今浜を長浜と名を変えた。長浜は、近畿、東海、北陸を結ぶ交通の要衝であったため武将たちの数々の合戦の場となっていた、市内には、秀吉の長浜城跡。秀吉の縁の寺社も多く、小谷より移した城下町は、当時の城下町としての繁栄もかいま見られる。

姉川の古戦場、小谷城、賤ヶ岳までもが現長浜市にはいる。　三成をはじめ、秀吉の部下の多くがこの地の出身である。

①【姉川合戦跡・血原塚（姉川合戦の地跡）】
姉川の野村橋（のむらばし）付近

浅井・朝倉軍と織田・徳川軍の戦い。小谷（おだに）城主の浅井長政（あざいながまさ）（1545-73）は、織田信長の妹お市の方を夫人にし、織田家と同盟を結んでいたが、親交のあった越前の朝倉（あさくら）氏を、信長が攻めたことにより信長と長政との間で戦闘状態に。浅井・朝倉軍約１万８千人と織田・徳川軍約２万８千人が、姉川を挟んで軍を敷き合戦が行われまた。最初、浅井・朝倉軍が優勢であったが、徳川軍の力戦によって朝倉軍が後退。浅井軍も崩れ、織田軍の総攻撃に合い、浅井・朝倉軍は小谷城へ敗走。死者、負傷者が多数出て、姉川は血で真っ赤に染まったと言われる。

姉川の戦いから３年後に、長政は小谷城を包囲され、28 歳で自刃した。

秀吉と七人の部下　縁の地を歩く

【姉川合戦・陣杭の柳】

姉川の合戦における織田信長の本陣跡。ここに立つ柳は信長が陣太鼓をかけて指揮をしたといわれる。

【岡山・流山神社】

姉川の合戦の時、徳川家康が陣を敷いた場所。樹齢 1300 年の杉がある。

【小谷城】　長浜市小谷

小谷城は、長浜市の小谷山（495.1m）にあった浅井家３代の居城。築城は 1524 年ごろで、中世三大山城のひとつ。琵琶湖や湖北の地を一望できる。

浅井長政と織田信長の妹・お市の方、その３人娘、茶々、初、江ゆかりの城。

姉川の合戦の後、浅井家が滅び、秀吉に与えられた。が、秀吉は今浜（長浜）に城を築き、そのまま廃城となった。

自然の地形を利用して、東西の尾根づたいに郭が配置され、本丸、大広間跡などの礎石が出土している。最頂部の大獄（おおだけ）（495m）にも土塁が残る。国の史跡。
（　　）